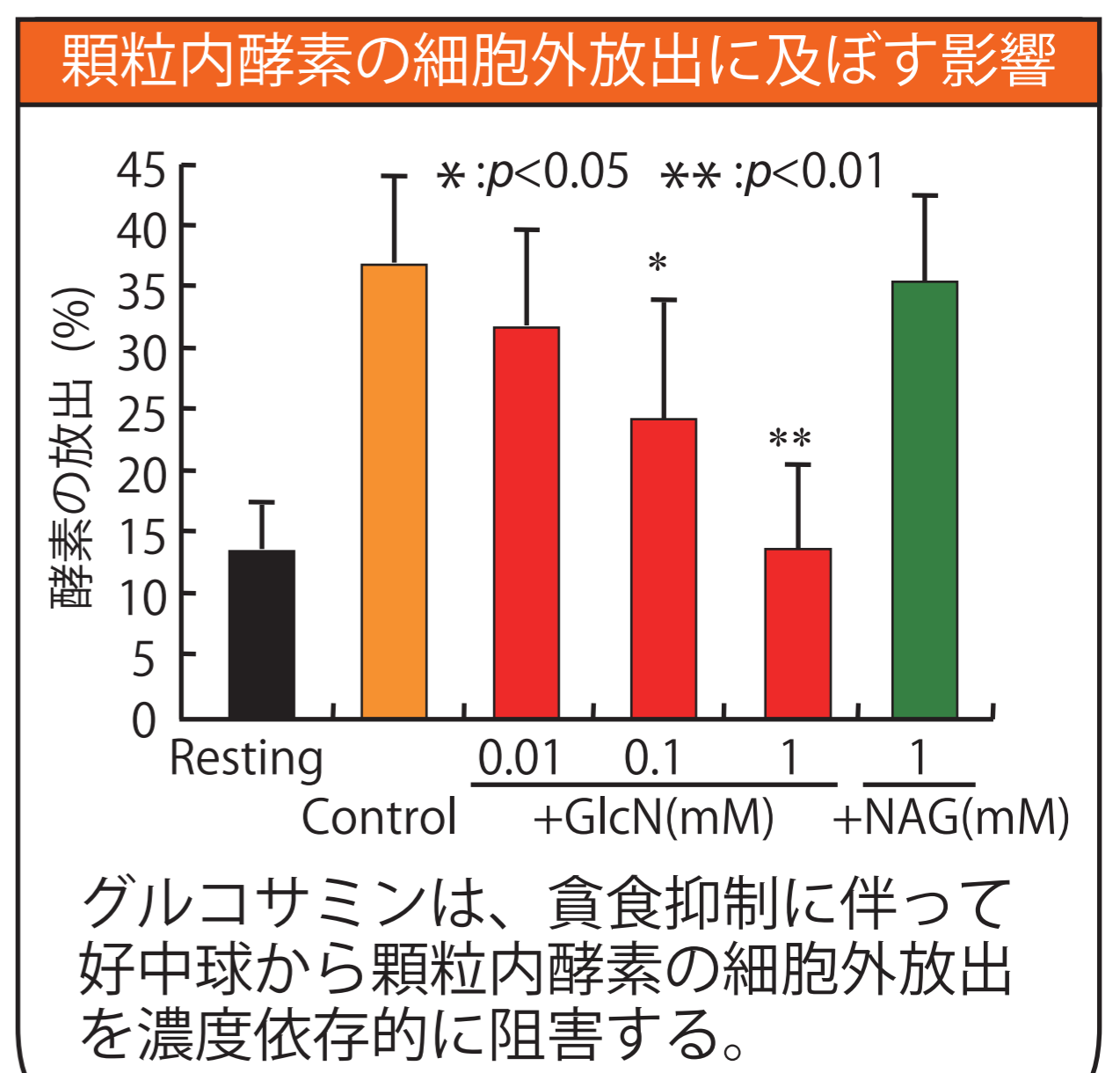
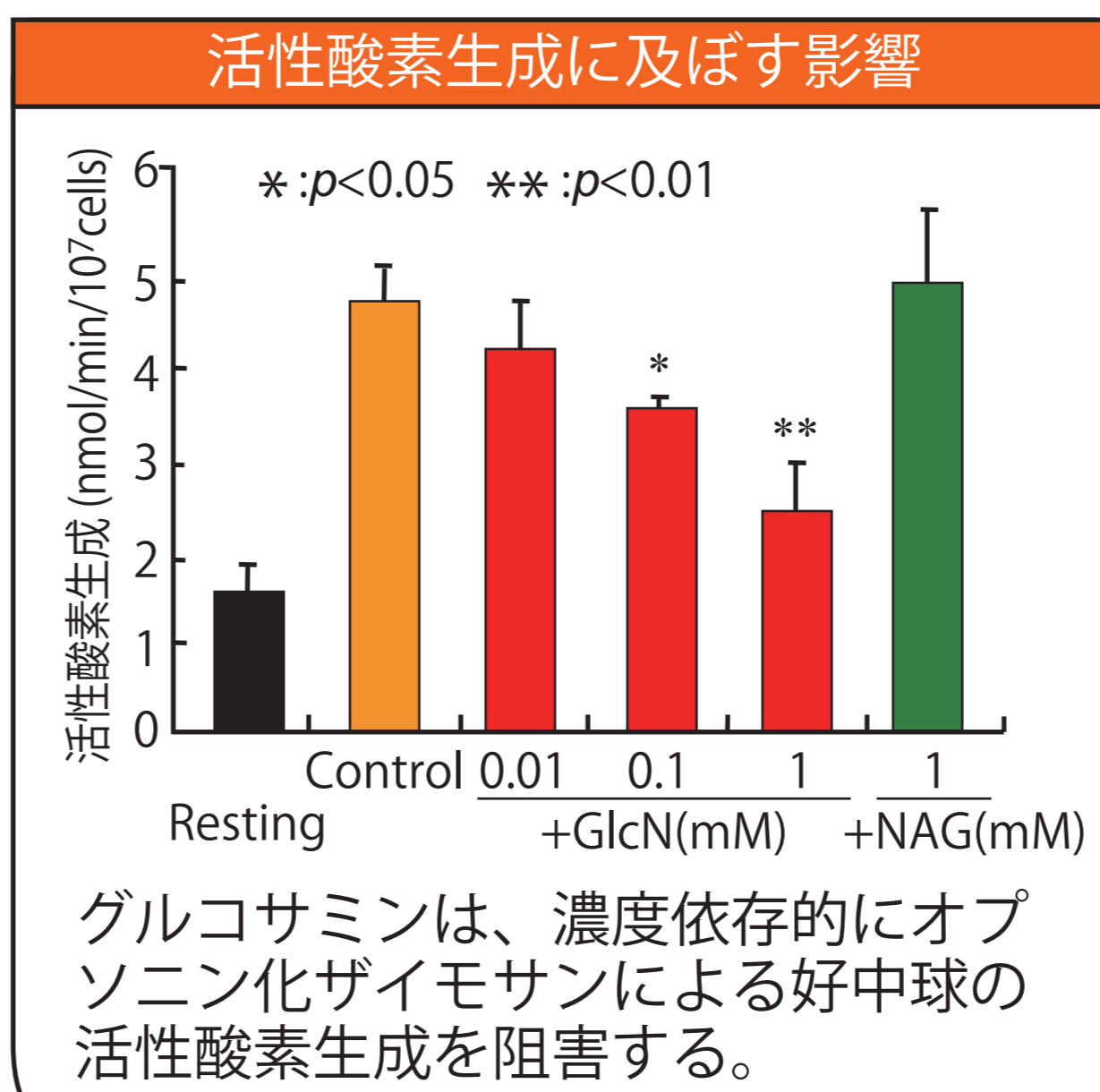
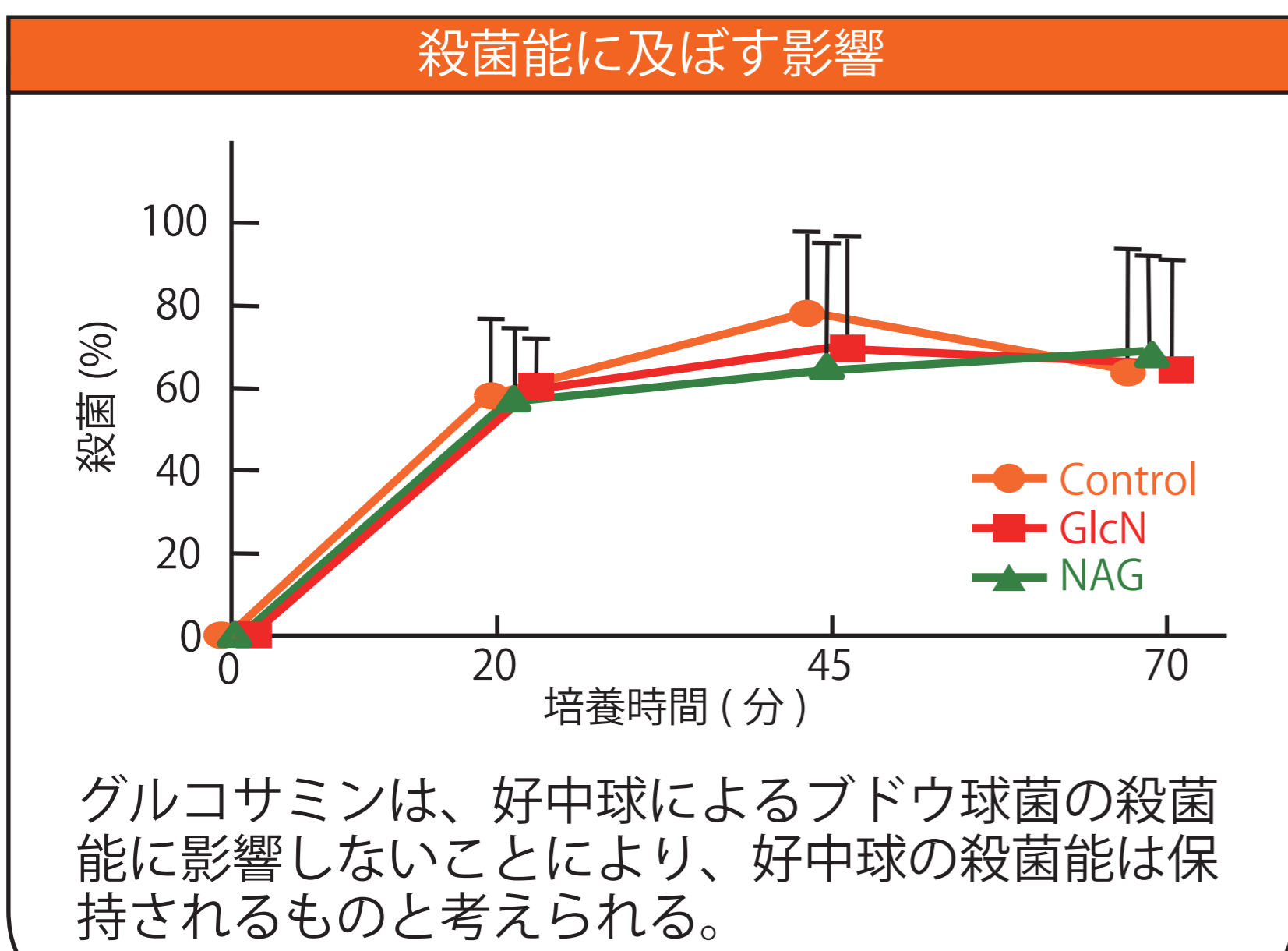
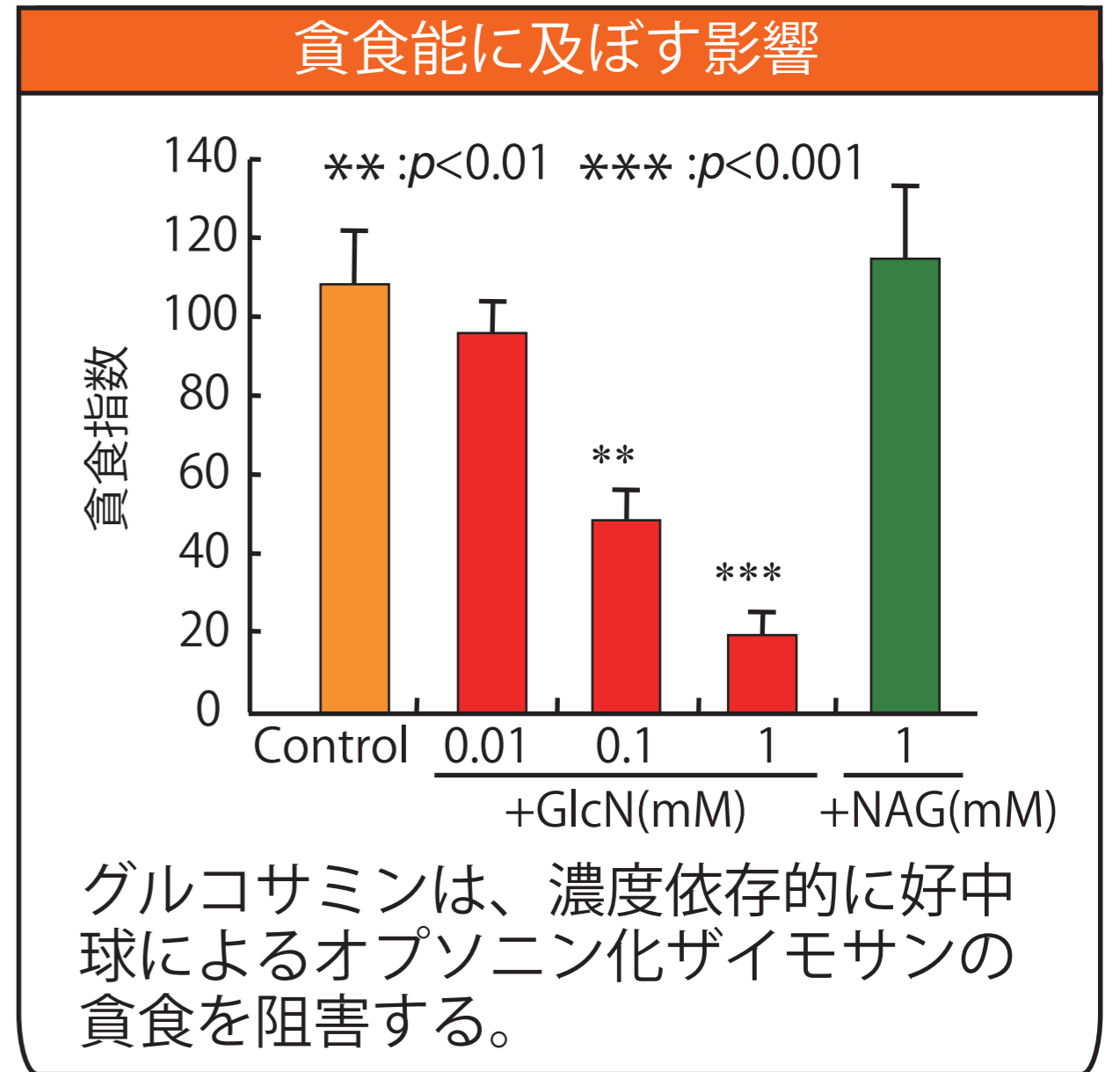
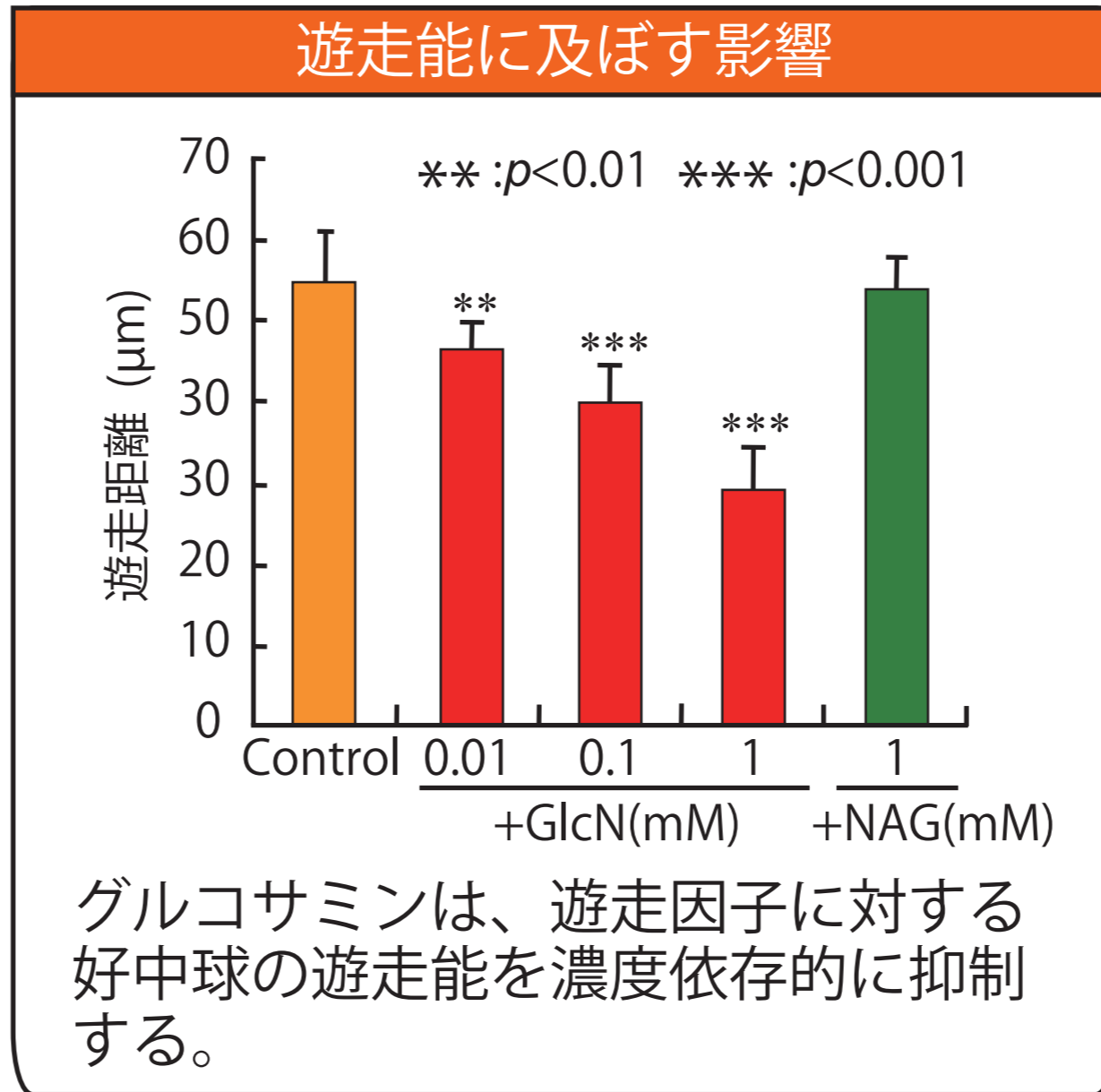
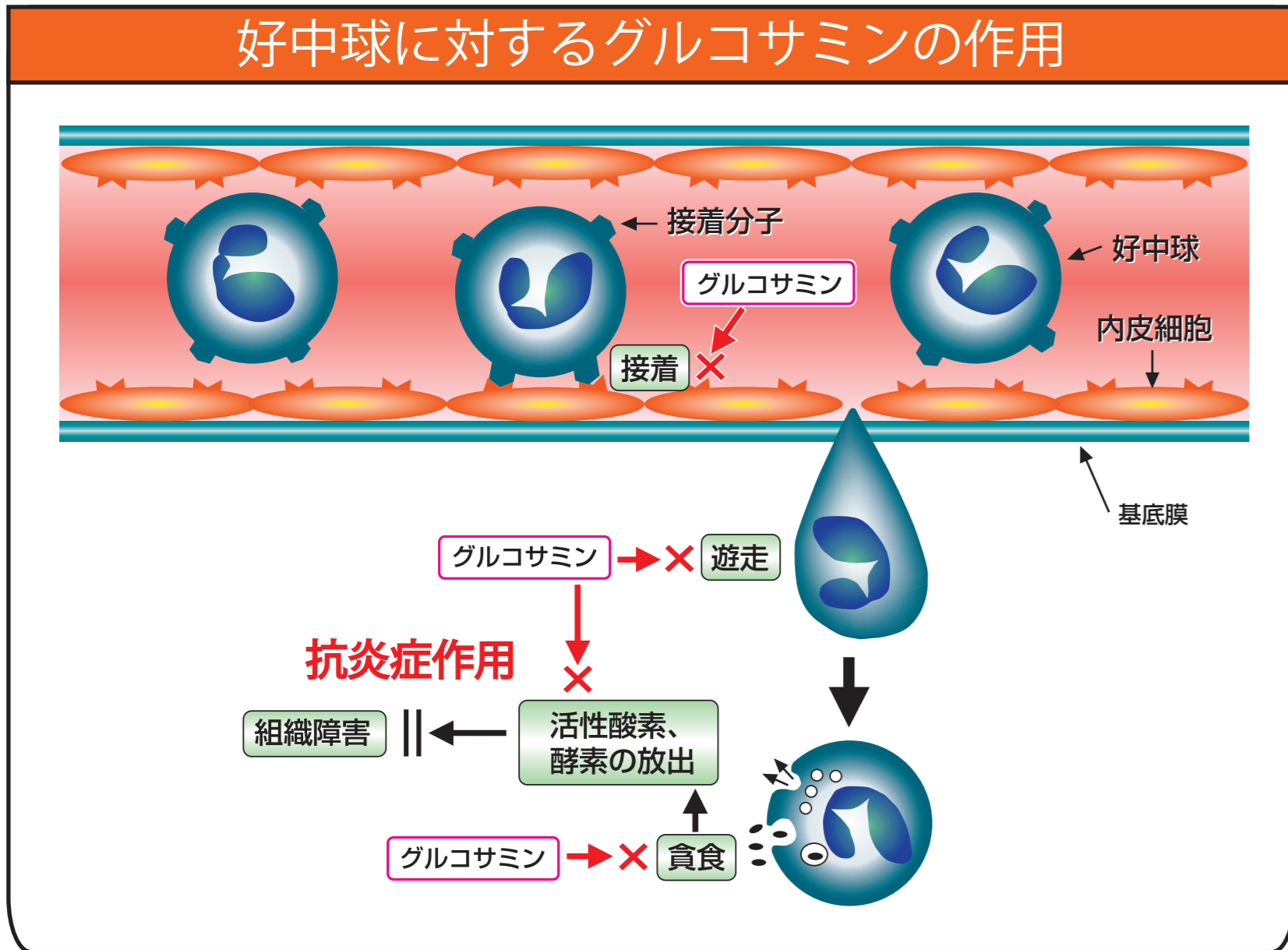


ロコモティブシンドローム グルコサミンでの関節ケア

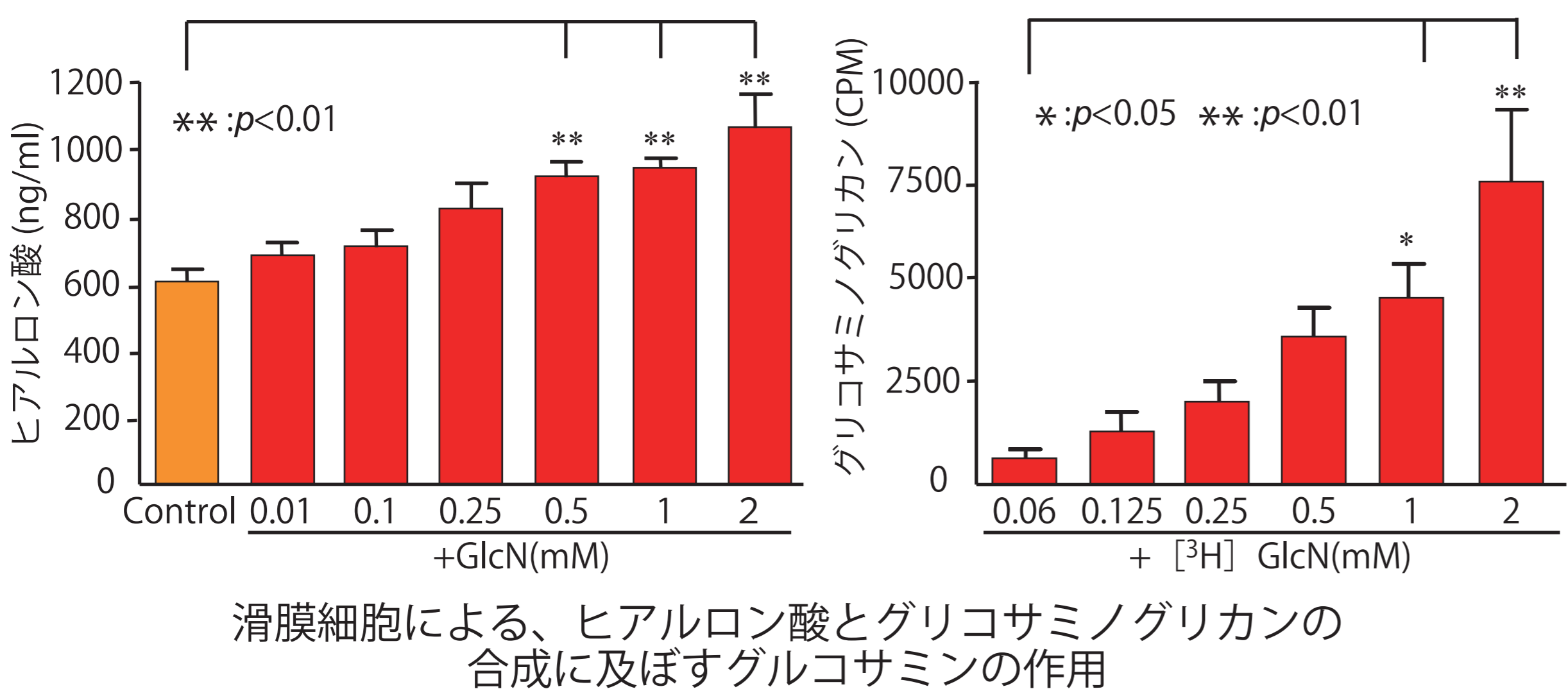
グルコサミンの抗炎症効果 ～好中球機能抑制による抗炎症作用～¹⁾

グルコサミンの好中球に対する抗炎症作用を *in vitro* にて確認をしたところ、好中球の遊走、貪食、活性酸素生成、酵素の放出を抑制する事が分かった。好中球の過剰な作用を抑制する事で抗炎症作用を発揮するものと考えられる。



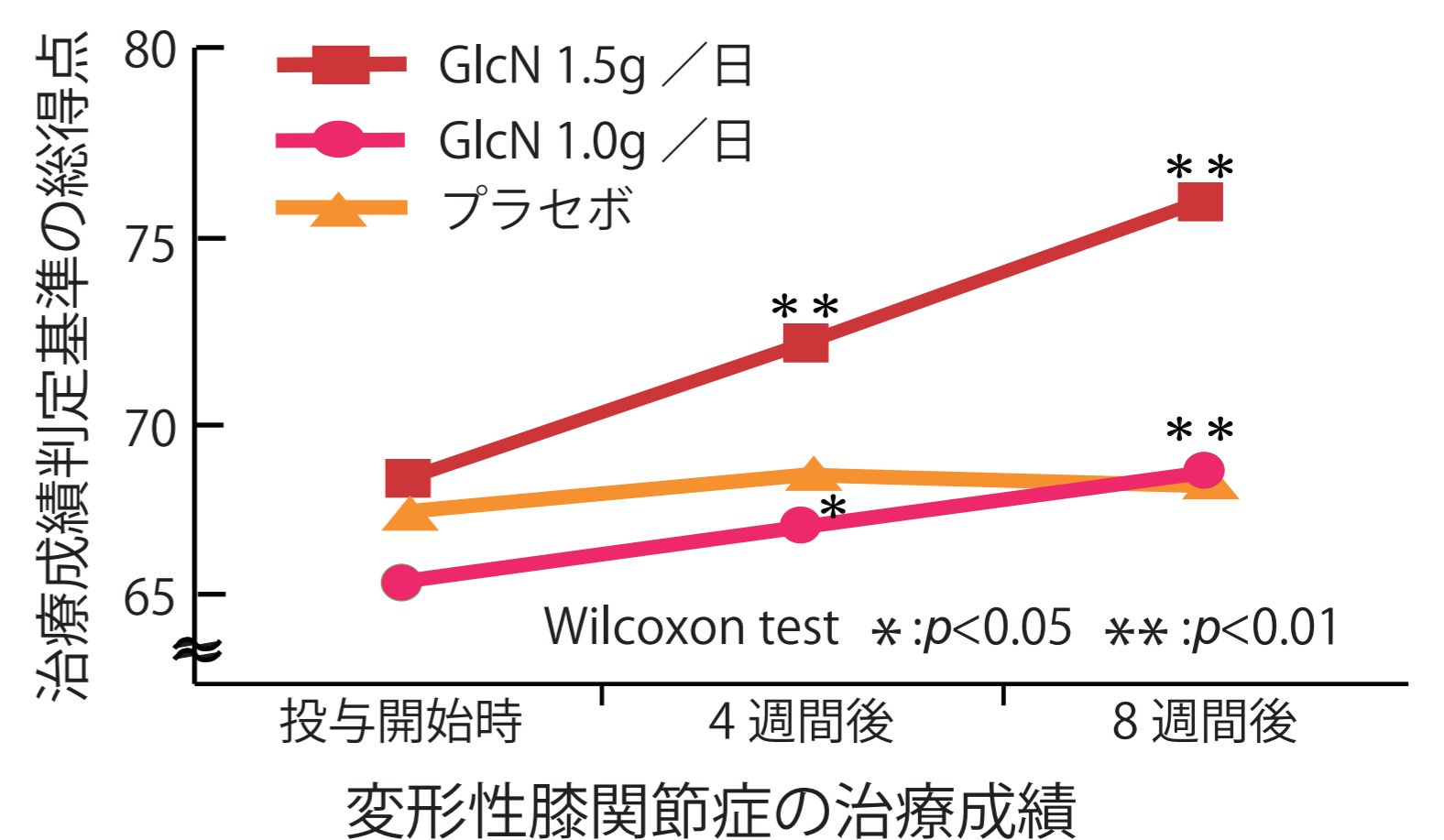
滑膜細胞におけるヒアルロン酸の合成促進²⁾

ヒト滑膜細胞にグルコサミンを添加したところ、濃度依存的にヒアルロン酸合成が高まった(左図)。また、ラベル化したグルコサミンを添加したところ、濃度依存的にグリコサミノグリカン量が増加した(右図)。グルコサミンがグリコサミノグリカンの材料として利用されている事が示唆された。



臨床試験での確認³⁾

変形性膝関節症の診断基準を満たす整形外科外来受診中の男女患者 50 名で、プラセボ対照二重盲検クロスオーバー法により 8 週間投与による 3 群比較試験を行った。グルコサミン 1.0g / 日および 1.5g / 日いずれの投与でも顕著な効果が認められ、その効果は用量依存的であった。



参考文献 1) 長岡ら：炎症・再生医学会雑誌 22 (5) 461-468(2002) 2) 華ら：キチンキトサン研究 13 (3) 239-244(2007) 3) 梶本ら：日本臨床栄養学会雑誌 20 (1) 41-47(1998)